

「テストの点数と競争が全て！」の 橋下・大森大阪市教委の学校潰しは破綻 高校入試調査書(内申書)の市教委方針に、校長からも異議アリ！

○ 大阪府教委が、今年度高校入試(現中3生)から各学校が作成する調査書(内申書)への記入方法を相対評価から絶対評価に変更すると決定した。他県は10年以上前に変更され、全国で唯一大阪府が相対評価のままだった。去年までの相対評価は10段階で、10は3%、9は4%など校内での人数の基準を教育委員会が決めていた。学校の格差による公平性の問題があった。今年度からの絶対評価は5段階で、個々の生徒の到達度によって評価するので人数の基準がない。

○ 今回府教委は、その「基準」として現3年生が昨年度2年生時に参加した全府統一実施の「チャレンジテスト」(5教科)を使って、「府全体の評点平均」を定め、さらに3年の4月実施の全国学力テスト(国・数・理)によって、各学校と府平均との上下差によって、学校ごとの評点平均の範囲(上下差)を決めるとした。(4/10府教育委員会議)

さらに大阪市教委は、これだけでは不徹底だ！として、3年の2学期に大阪市独自テスト(5教科)を新たに実施し、その結果を使って、大阪市内の全受験生(在籍生徒全員)を成績順に並べ、上位6%の生徒には必ず評点5を、上位18%には4を、上位39%には3を、・・・と各生徒個人の「評価基準」も決めるとした。(4/13市教育委員会議で「改訂版」を最終決定)

○ しかし、そもそも入試の選抜基準は当日の「入学試験」(面接のある高校もある)と中学校から送られる調査書を各高校が総合的に判断して可否を判定してきた。この「調査書」は、当日の入学試験で判定できない中学校3年間のその生徒の取り組みが重要な要素を占め、評価されてきたものだ。



今回の府・市教委方針は、日常の生徒の努力や到達度の上昇という本来の絶対評価のプラス面を切り捨て、調査書も全て上記3回の統一テスト結果だけに比重を置き、教員と生徒を点数・競争至上主義へ一層追いつたて、学校をますます荒廃させる危険性が大きい。特に、それを徹底すると宣伝する大阪市教委の方針は、入試そのものが2回あり、その1回目が「大阪市独自テスト」だという、大学入試の「センター試験」のようになってしまう。低学力の生徒にテストを受験させない圧力がかかるのではないかと(生徒どうしても「あいつがいるからうちの学校の平均が下がる」といった意識が出てくるのは否めない)、全国学テや統一テスト対策を看板に塾産業がますます過熱していく、等々懸念はたくさんある。

○ さらに、大阪市教委は今まで評価の基準の一つだった「関心・意欲・態度」を項目から削除し、特筆すべき点を別に文章表記すると変えた。「この生徒は非常にノートの取り方を工夫している。」「この子は自由研究に授業の内容を生かしてさらに深める観察を工夫して力作をまとめた。」などの本来の教育や学力を伸ばす観点が全て、点数で測れないから不必要なものとして捨てられる。生徒自身も「大阪市独自テスト」の点数さえ取ればいい、と普通の授業を軽視する(極端になれば欠席する)傾向がでてくるだろう。また、「音楽・美術・技家・体育」などの実技4教科はますます軽視され、行事の見直し削減がされ、点数教育にますます拍車がかかることは必至だ。(府の他市は「関心・意欲・態度」をこれまで通り評定に入れているから、同じ府立高受験で違う内容の調査書になる。)

○ しかし今、4/13決定以降大阪市HPに掲載されていた市民説明「Q&A」から、「関心・意欲・態度」の除外を説明した「Q・A4」項目だけを削除した文書を「Q&A(抜粋)」版と名付けて市教委が新たに作成し、保護者への全員配付を始めている。5月下旬の全市校長会等で校長からの異論が出たと言われる。市教委は市民に対しては、「4/13決定方針自体は変わらないが、表現に誤解を生む点があったので代えた。」とゴマカシ説明に終始。

◎ **テストの点数と競争が全て、という橋下市長・大森教育委員会の学校現場つぶしの破綻が、表に出だした！**

労働相談・問い合わせ(教職員なかまユニオン)は下記のHP・Tel・メールへ

<p>誰でも一人でも入れる労働組合 教職員なかまユニオン (大阪府・大阪市学校教職員支部)</p>	<p>2015年 6/6</p>	<p>〒534-0024 大阪市都島区東野田町4-7-26-304 (Tel 06-6242-8130 Fax 06-6242-8131) http://www.nakama-kyoiku.com/ Tel(相談担当) 090-1914-0158 メール nakama_kyoiku@yahoo.co.jp</p>
--	-----------------------------	---

